

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 4 年度第 1 回</p> <p style="text-align: center;">富士見市環境審議会議事録</p>						
日 時	令和 4 年 7 月 8 日 (金)		開会 午前 10 時 30 分 閉会 午前 12 時			
場 所	市役所本庁舎 市長公室					
出席者	委員	須田昭 委員	木内芳弘 委員	中村章 委員	星野弘志 委員	守山義一 委員
		○	○	○	○	○
		柳田政男 委員	五十嵐 正幸委員	関知枝 委員	細田英夫 委員	水村誠 委員
		○	○	欠	欠	○
		高橋満 委員	戸塚隆久 委員	細田皓一 委員	田中聰行 委員	
		○	○	欠	○	
	事務局	環境課 大堀課長、大橋副課長、鈴木主査、神谷主任 環境総合研究所 寺山、長崎、小平				
公開・ 非公開	公開 (傍聴者なし)					
議 題	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 諮問 (2) 市長あいさつ (3) 第 3 次富士見市環境基本計画について 4 その他 5 閉 会					

議 事 内 容

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 諮問

星野市長より須田会長へ諮問

(2) 市長あいさつ

(3) 第3次富士見市環境基本計画について

資料1 富士見市環境基本計画について

資料2 第3次富士見市環境基本計画策定について

資料3 環境意識アンケート調査結果

資料に基づき、第3次富士見市環境基本計画策定に向け、富士見市環境基本計画の基本的事項、第3次富士見市環境基本計画策定の方向性、環境意識アンケート調査結果について事務局より説明。

《委員からの質問・意見》

〈委員〉・温室効果ガスの平成29年度削減実績が4.9%とあるが、削減目標の13%と大きく差が発生してしまった原因はなにか。

・対象となる温室効果ガス7種類に対して個々に対策はしているのか。

〈事務局〉・削減目標の数値から大きく離れてしまった点については、現時点では分析できていないため、今後、第3次計画を策定していく中で原因と対策について考えていく必要がある。

・個々の温室効果ガスの削減取組については現計画では考えられていないため、今後検討していく。

〈委員〉・それぞれの温室効果ガスの排出理由についても分析されていないのか。

〈事務局〉・それぞれの温室効果ガスの排出源は把握しており、例えばメタンだと、燃料の燃焼、自動車の走行、家畜の飼養といったところから出ており、ハイドロフルオロカーボンであると、冷凍空調機、プラスチックの製造等から発生している。対策については、どこまで盛り込めるかも含めて今後検討していく必要があると考える。

〈委員〉・隣接されているららぼーとの屋上には大きな室外機が設置されており、見た感じだと天然ガスを使用したコージェネ装置だと思われる。光化学スモッグの原因である窒素酸化物が多く、対策の方法はないため、注意報を発令し注意啓発を続けており、そのようなことに対する認識等についていろいろやっていかなければならないと思う。しかし、今の話を聞くとあまり分析されておらず、これだけ立派な書類をつくっても有効性について疑問が生じる。私はこれまでに温室効果ガス削減に関わる仕事もやってきたが、富士見市は排ガスについて甘いという認識をもっている。トラックターミナルや工場の建設を考えているようだが、温室効果ガスを10年後に減らさなくてはならないのに増やしていこうとしてい

るように感じる。公表するからには根拠をもった前向きなものにしてほしい。

〈委員〉・事務局の環境基本計画を作るにあたっての熱意は十分に伝わった。しかし、富士見市全体に係る開発計画などの説明は提示されない。例えば産業団地をつくる計画があることや、その規模がどれくらいなのかといった情報が提供されないというのが現実であり、形だけの行政計画とを感じる。

・環境審議会は学会会議のような位置づけになっており、市民生活に直結したことであるのに全く活かされておらず、行政施策に反映できていないところが歯がゆいと感じている。

〈委員〉・富士見市総合計画が上位計画としてあり、産業計画、人口、市民生活に対する様々な解析がされ、環境施策についても細かな具体的な目標値が記載されている。第3次環境基本計画の策定にあたり、総合計画がどのような計画なのかを踏まえなければならない。そのためには、皆さんで内容を把握した上で、今後の富士見市のあり方の中で、環境分野に関して総合計画で足りない部分や、もう少し細かく追及する必要のある部分を補う形で進めていければ良いのではないかと思う。

〈委員〉・もし用意できるのであれば、総合計画の概略等の説明資料があればよいと思う。

〈委員〉・中間目標が平成29年度ということはコロナ禍前のことだと思うが、その後、コロナの影響で産業が下がり気味になり在宅が増え、家庭部門の増加などが考えられるが、それらを踏まえた令和2年度や3年度の実績値、あるいは令和4年度の推測値といったデータはあるのか。

〈事務局〉・資料作成時では、平成30年度が最新であるが、もう間もなく平成31年度（令和元年度）の数値が出る予定となっている。

〈委員〉・今現在ではコロナの影響は分からないということによいのか。

〈委員〉・国では令和元年度まで出ており、コロナによる1年目の影響も含まれている。在宅が増えたために家庭部門が増えているが、全体としては産業部門が減っているため、国全体の温室効果ガスは減っている。富士見市もそれと同じような傾向が出ると思われるが、富士見市の場合は、家庭部門の割合が高いため、家庭部門がどうなるかというところ。

・削減目標値に大幅に届かなかった理由は、家庭部門の割合が大きいためである。なぜ家庭部門が減らないのかというと、人口が減っていても世帯数は増えているため、一世帯が使うエネルギーというのが大きくなっているためである。しかし、世帯数の増加が少し収まってきているため、今後どうなっていくかについて予想していく必要があり、その影響が大きく出るのが富士見市であると思われる。

〈委員〉・緑地の保全について、平成4年に指定された生産緑地が今年で30年経過となるため、指定期間が満了となる。今日までの経緯から農地の緑が減少傾向であり、生産緑地の指定解除が増えることで農地の緑がますます減少することが予想されている。担当課ではないと思うが、生産緑地の解除状況、これらの対応策及び方針内容について、分かる範囲でお聞かせ願いたい。

〈事務局〉・生産緑地については、742筆が令和4年度に満了を迎える。満了を迎える中で、継続の意向をいただいているのは約600筆である。残りの140筆については現時点で回答がきていないため、解除になるのか継続に

なるのか不透明である。

〈委員〉・指定箇所が減るという理解でよろしいのか。また、10年間延長できるかと思うが、減るということを危惧しており、ますます農地の緑地が減少傾向にあるため、担当課と協議をして如何に生産緑地を保持、維持していくのかについての検討をお願いしたい。

〈委員〉・環境審議会でそのような意見があったと関係課に伝えることは可能か。

〈事務局〉・このような質疑や意見があったと伝えることは可能である。次回以降の審議会第3次計画策定にあたり環境審議会として議論するかご相談させていただく。

〈委員〉・第2次計画でごみの排出を減らすため、ごみの焼却について書かれていたが、時代が変わっているので、焼却だけでなく、再活用の意味を含めてどう削減していくかを第3次計画では盛り込んでもらいたいと考えている。

〈事務局〉・第3次計画を策定する中で、捨てる以外の方法の検討をしていく。

〈委員〉・現在の環境基本計画の中で湧き水の保全と啓発があるが、富士見市の環境を見たときに、湧き水が圧倒的に重要であると思っている。湧き水のスポットだけではなく、斜面林を中心とした保全、湧き水の量を増やすための後背地での雨水の浸透、さらに湧き水が流れた先の流域での自然の保全など、湧き水の影響は広範囲に及ぶ。富士見市全体の環境を守るうえでも非常に重要であると思うため、十分ご審議いただければと考えている。

〈委員〉・富士見市環境施策推進市民会議も巻き込んで、アイデア等をもらうべきだと考える。

〈委員〉・先ほどの湧き水について、資料2の3ページにあるように、湧き水が29箇所あるという記載だけではなく、湧水量の変化や生き物達との関係についての情報も出してもらわないと興味がわいてこない。例えば私が関わっている山室排水路でいえば、武蔵野台地の上は農地がまったくないため、このままだと枯れてしまうのではないかと。また、29箇所について河川との合流部分まで調査をしてくれているのか分からない。湧き水は場所の数だけで判断できるものではないので、環境審議会として数の話だけをすることに疑問を感じた。

〈委員〉・湧き水について、12～13年前に市民大学で湧き水の調査を行い、2回に渡り本を出しているが、測定器をどう使用したかなどの記録がほとんどないため、現在行おうとしても実行できない。しかし、市民に知ってもらいたいため、武蔵野台地はなぜできたのか、なぜ水が多いのか原因がわかっているため、年に2、3回募集して、湧き水の箇所を説明しているが、だんだん尻細になってしまっている。市民と一緒に調査をして資料として残すことが重要であると考えている。せっかく環境分野で課題が出ているのだから前向きにやっていくべきだと思う。

・地下水の適切な管理がされていない場所もあるため、全体的に皆で意識を高めていけばよいと思っている。

〈委員〉・事業者アンケートについて、環境配慮への取組で支障となることは予算や技術的に困難であるということが多く、行政が行うべきことでも補助金の交付を挙げているが、市として事業者への補助金や技術的支援などの計画は考えているのか。

〈事務局〉・再生可能エネルギーの普及という観点でいうと、昨年度までは太陽光パネルの設置及び蓄電池の設置は市民の方の個人住宅のみが対象であったが、今年度からは事業者も対象とするなどの財政措置をしながら進めていく取組をしている。

- ・さらに、今年度からは水素自動車等を含め、補助メニューを拡大しつつ、市民限定の補助金だったものを事業者も対象としている。また、事業者向けの機械は出力が大きく、値段も高いため、単価制度を導入し、市民とは違った形での支援を用意している。今年度、ゼロカーボンシティの宣言をしたため、さらなる制度の拡充を行っている。

〈委員〉・市民アンケート調査結果にある、富士見市の環境に重要だと思うものの結果報告を見ると、「土とのふれあい」、「生きものとのふれあい」が少数となっているが、手や体の一部で触ることで、自然を実感できると思っている。おそらく、「汚れる」、「汚い」といった先入観から躊躇しているのではないかと推測している。興味を持たせることが必要であると思われるため、第3次環境基本計画に向けて、幅広い環境の考え方に誘導する手段を研究して反映できればよいのではないかと。汚れたりするのが嫌だということはあるが、子供たちが少しでも湧き水などに触れるなどの体験をすることによって、少しでも第3次環境基本計画に反映していただきたい。

〈委員〉・県内において、ごみの排出量の少なさが1位ということは非常に素晴らしいことである。しかし、浄化槽の検査率については63市町村で比較した際に最も悪いという現状もある。富士見市は下水道の普及率が全県で2番目に高いため、浄化槽はあまりないと思われがちだが、実は1800件以上残っており、その検査率は4.3%でありあまりにも低い。計画には載せづらいと思うが、少なくとも今後10年間でワースト1から脱却していけるようにやっていきたい。それが、湧き水の方とも絡まり、水環境の保全にもつながっていくため、計画に掲載していただきたい。

4 その他

〈事務局〉・第2回審議会は8月中下旬の開催を予定している。内容は現行計画の進捗状況及び骨子について議論する予定である。後日開催通知をお送りするので、ご確認いただきたい。

- ・7月から環境審議会委員の公募をしている。公募市民の方に対してはこの後ご案内する。また、団体及び学識者として参画されている皆様には次回審議会にてご案内させていただく。

5 閉会